会　　報

創立70周年記念研修旅行特集

ART TRIP フィレンツェ物語
（フィレンツェに暮らすように旅をする）

１　ART TRIP フィレンツェ物語（フィレンツェに暮らすように旅をする）　２～４ページ
創立 70 周年記念研修委員会委員長　石田　邦夫
２　“La culla delle arti”　芸術のゆりかごと呼ばれているフィレンツェへ　５～７ページ
創立 70 周年記念推進委員長　瀬戸本　淳
３　永遠の花の都フィレンツェを訪れて　８～１０ページ
創立 70 周年記念研修委員会副委員長　大木　弘惠
４　兵庫県建築会創立 70 周年記念海外研修に参加して　１１～１２ページ
株式会社 山本設計　山本　康一郎
５　ドゥオーモのある風景　１３～１４ページ
神鋼不動産 株式会社　川端　宏幸
６　ART TRIP フィレンツェ物語　１５～１７ページ
株式会社 APEX 設計　渥美　充広
７　ART TRI P フィレンツェ物語に参加して　１８～２１ページ
株式会社 創建設計事務所　佐川　圭
８　フィレンツェ物語（イタリア・スペインの旅）　２２～２４ページ
株式会社 アーキノヴァ設計工房　柏本　保

研修旅行旅程表、参加者名簿　２５～３０ページ

平成30年1月15日

次代を築くヒューマン・ネットワーク

一般社団法人兵庫県建築会

ART TRIP フィレンツェ物語
（フィレンツェに暮らすように旅をする）

創立 70 周年記念研修委員会
委員長　石田 邦夫

フィレンツェを訪れるのは今回で四度目です。一人で行った 27 歳の時、黒田公三先生と行った 41 歳の時、妻と行った 58 歳の時、その時々に受けた印象や体験は違ってはいましたが、いつも素晴らしいものでした。この街に腰を据えて、芸術作品を鑑賞するだけでなく、この街を巡り歩き、その空気も味わってみたいとの想いをずっと抱いていました。

一般社団法人兵庫県建築会の創立 70 周年記念海外研修の企画をわたしにさせれば、必然的にフィレンツェに腰を据えたような旅になってしまいます。何故なら、お仕着せのツアーでは実現できそうにもない、しかし 70 年の歴史を持つ兵庫県建築会だからこその特徴を持った研修旅行にしたかったからです。

わたしの独善ですが、フィレンツェほど芸術作品と建築が見事に融合している場所は他に無いと確信しています。幕ノ内弁当ではなく、参加した一人ひとりがアラカルト料理を味わう、そんな旅を夢想したのです。だから今回の旅のコンセプトを『天井のない美術館フィレンツェに暮らすようにして、美術館を巡り、伝統工芸の工房見学やトスカーナの小さな街やワイナリーを訪れ、そして美味しい食事を共に楽しむ旅』としました。

イタリアを旅行された方ならば、フィレンツェは必ず訪れているはずですから、わたしが立てた酔狂とも言える企画の旅に参加する人は、少ないかなとの危惧はありました。ところが蓋を開けると、20 名もの方が参加してくれました。

今回の旅行はわたし達の面倒を見てくれる専属のガイドも添乗員もいない、全くの個人旅行の集団です。事前に予約をしておいたホテルと夕食以外は、何をするのも自分で手当てしなければなりません。イタリア語が喋られないとか、英語が良く通じないとか言っていられません。寝酒のワインやお目当てのお土産を買うのも、自分で算段しなければなりません。バールで注文した品と違った品が出てきて、仕方なしに食べたり飲んだりした方もいたかもしれません。現代の日本では不自由さを味わうことが少ないが故に、皆さん一人ひとりが、貴重なそして面白い旅の体験をしたと思います。

暮らすようにする旅だからこそ出来たわたし達の行動を、少しだけ披露します。

フィレンツェの旧市街には沢山の裏道があります。こうした裏道を散策しながら、今では数少なくなった伝統工芸を守る職人達の工房（タッディ革工房、マーブル紙工房、貴石モザイク工房、金工細工工房）を訪ねました。匠の技で美しい実用の品々が作られていく様子を見学する機会を得ましたが、職人仕事の精緻さに唯々感嘆した次第でした。

〈タッディ革工房〉

次に、フィレンツェを紹介する映像では、必ずと言って良いくらい登場する、ミケランジェロ広場に夜明け前に行ってきました。ホテル近くのバス停から未だ暗い 6 時半過ぎのバスに乗りました。わたし達夫婦と数人の乗客だけで貸し切り状態です。発車から 20 分程でミケランジェロ広場に着きました。東の空が段々と明るく朱色に染まっていきます。アルノ川の川面がキラキラと輝きだし、フィレンツェの街を特色付ける屋根瓦の黄色の交じった朱色：バーミリオン色が刻々と変化していく様子は素晴らしいものでした。

又、参加者全員での夕食会のあと、小さな教会で催される演奏会にも行ってきました。プロのオペラ歌手が、よく知られた曲のパートを、教会中に響きわたるほどの歌声で朗々と熱唱してくれました。最高の楽器は人の声だと言いますが、まさにその通りだと思ってしまいました。

演奏会が終わり、街は昼間の喧騒が嘘のように静まり返り、ライトアップされた大聖堂を眺めながら歩いてホテルに帰りましたが、時刻は 23 時を大きく過ぎていました。腕を組んで夜の街を歩くわたし達夫婦は、フィレンツェの街中に暮らしているように、時間を気にせずに家に帰って行く気分でした。

〈夜のロッジア新市場・イノシシ像〉

この旅はフィレンツェに 7 連泊ですから、その間参加者は自分流の旅行プランを自由に実行することができます。但し、夕食会には原則として全員参加を求めました。

自由な旅行を実行された参加者の中には、フィレンツェを基地にして、ローマ、ミラノ、スペインのバルセロナ、へと足を延ばしお仕着せで無い自分流の旅を楽しんでいました。

参加者全員が集まり一緒にいただく夕食会は、事前にメニュー内容は判っていましたがレストランのお任せでした。しかし、一度だけメニューを見ながらその場で注文する日を設けました。メニューを眺めながら、ああでもない・こうでもないと喋っているのを、週末に家族で食事に来たと思われる隣のテーブルのイタリア人達が、あきれ顔ながらニコニコと眺めていました。慎み深く静かな日本人のイメージを覆したかもれない晩餐会でしたが、お店を出る時にはスタッフが笑顔と握手とハグで見送ってくれました。(因みに歌手のロザンナに似た女性にハグされたのは、会計係のわたしの役得でした)

この旅を終える最後の段になって『ハラハラドキドキのドラマ』が待っていました。日本に帰国する便に搭乗する 10 月 2 日に、空港職員がストライキを行うという情報が、旅行出発前日に入ってきました。そして、帰国前日にそのストライキの詳細がついに明らかになったのです。

それは朝の 7 時～10 時の間の便しか飛べないと言うものでした。我々の便は 10 時 05 分発です。予定通りストライキが実施されれば 5 分差でアウトです。

不安な気持ちでフィレンツェ・ペレトラ空港に行き、まず第一番に飛行情報の案内板を見ました。すると 10 時 05 分発フランクフルト行 LH309 便のチェックイン案内が出ていたのです。間一髪で予定通りの帰国便に搭乗する事ができましたが、その後の便は GROUND STAFF STRIKE の表示が並んでおり、出発できない便が続いていました。

大きなトラブルもなく和気あいあいと打ち解けた雰囲気の中、無事に海外研修旅行を終えることができたのは、団長の瀬戸本会長の温厚な人柄の賜物と感謝申し上げます。そして、参加者皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。それと同時に、わたしの勝手な行動を許してくれた皆様にお詫び申し上げます。(フィレンツェから帰国する飛行機にわたし達夫婦は搭乗せずに、別便でハンブルクに行ったことです)

一般社団法人兵庫県建築会創立 70 周年記念の各種記念事業の掉尾を飾る、今回の研修旅行を無事に終えた今、兵庫県建築会が 70 年にわたり作り上げてきた素晴らしいヒューマン・ネットワークの秘密の一端が解った気分です。

〈アルノ川に架かるポンテ・ヴェッキオを背景に全員集合〉

《追　記》

研修旅行の反省会と称して『フィレンツェに暮らすように旅をする・アンコール』を、12 月 8 日に三宮のイタリアレストランで開催しました。フィレンツェでの一夜が再現したかのような賑やかな、そして心温まる集まりになりました。来年もどこかに行こう‼の声も挙がり、大いに盛り上がりました。

参加者全員からいただいたサプライズプレゼントにはビックリしましたが、わたしにとって一番嬉しかったのは、旅行参加者 20 人が暮れの忙しい時期にも関わらず全員が出席してくれたことでした。

本当にありがとうございました。　Grazie Mille‼

“La culla delle arti” 芸術のゆりかごと呼ばれているフィレンツェへ

創立 70 周年記念事業推進委員長
瀬戸本　淳

23 才の時に、安井建築設計事務所の同期の友と「いつか美しいイタリア人の女性と結婚しよう。」というまじめな（？）動機で、神戸の女性家庭教師のところへ通いはじめました。1 年ぐらいで少しばかりしゃべれるようになった頃、歌手の「ヒデとロザンナ」さんの「愛は傷つきやすく」が大ヒットし、テレビでよく見かけるようになりました。私達はお互い顔を見合わせて「美人だけれど何か違うな」ということで勉強をやめることにしました。

仕事の関係でイタリアの雑誌は取っているし、カンツォーネが大好きでイタリア語とは関係を保っていました。イタリアへの旅行も 33 才のはじめての一人旅から数えて今回が 5 回目ですが、もっとしゃべれたら楽しいだろうな、という思いがずっとありました。昨年に、70 周年記念旅行の行き先はイタリアのフィレンツェと石田委員長から発表があった時からもう一度教室に通う決心をしました。しゃべれるイタリア語の初歩からやり直しです。

一緒にイタリア女性にあこがれた親友を昨年 2 月に亡くしました。いつも 5,555（チンクェミッレ、チンクェチェント、チンクァンタ、チンクェ）と笑って言っていました。彼の分も勉強してやると、今年の 1 月から毎日のように励みました。しかし、この年令で新しい言葉を覚えるのはきついです。少しでも同行の皆様のお役に立つことができればと思ったのですが、あまり出番はありませんでした。なぜなら石田さんの完璧な準備と英語のおかげで、夕食まですべてが順調に進んだからです。まあ、それでもお店の人やガイドさんたちとしゃべれたのは大きな自信になりました。これからもがんばります。

ロッセリーニ監督の映画「戦火のかなた」を見ました。第二次大戦のさなか、シチリアに上陸した連合軍と後退を続けるドイツ軍がイタリアの南から北に戦線を移動していったのが悲しく描写されています。フィレンツェでもアルノ河の北と南に分かれて戦火を交えました。ドイツ軍はポンテ・ヴェッキオ以外のすべての橋を爆破しました。両軍ともアルノ河一帯の建物のうち、史的芸術的価値があるものは残し、そうでないものには神経を払わなかったようです。メディチ家と並ぶ大商人ルカ・ピッティがブルネレスキに設計を依頼したピッティ宮や、ジョルジョ・ヴァザーリの設計のウフィッツィなども残りました。

ピッティ宮は後日メディチ家のコジモ一世の住まいになるのですが、そこからヴェッキオ橋の 2 階の回廊を通って毎日オフィス（ウフィッツィ美術館）に通った 1km の通路もヴァザーリの設計です。メディチ家の息女をフランス王に嫁がせる頃までは、ヴェッキオ橋は肉屋さんが使っていました。活気に満ちていました。不要な骨などはアルノ河に投げ捨てられていたのですが、そもそも上流には刑場があり、そこで処刑された人の分断された四肢もアルノ河に捨てられるのが習慣だった時代です。こんなことではかっこ悪いということで、肉屋は強制移転され、そのあとに貴金属製品のお店が移ってきました。そして、この形のまま現代に至っています。

石田さんのレポートにヴェッキオ橋を背景にした全員集合の写真があります。みんなで並んでいる橋はポンテ・アレ・グラッツェ（神への感謝）と呼ばれ、中世の頃には小さな礼拝堂や修道僧のほこらが建ち並んでいたそうです。

この橋から見るヴェッキオ橋は、まことに美しいです。まるで鏡のように影が動かずに湖面に姿を映しています。食事を終えてからみんなで眺めた夜の情景に感動しました。

中世のフィレンツェは、この河を渓流にせず、上流と下流でせき止めて、街の中を流れる河をゆったりとおだやかなものに変えたのです。この河が街を二分するどころか、言葉では表現しようもないほどの安らぎと、人間の住まう最高の都市へとまとめあげることへの成功に貢献したのです。

〈ヴェッキオ橋の夜景〉

1372 年完成のピサの斜塔の見学を終えてから、ピサ大学の物理学教授で神戸高校での私との同期生、小西憲一先生と久しぶりに会いました。待ち合わせはグラーノ広場、この広場に面しているサピエンツェア宮殿（知識の建築）は、小西教授がピサに来て最初に勉強した場所だそうです。

ピサは第二次ピサ共和国として自治権を再生したのですが、フィレンツェ軍との 15 年間にわたる包囲戦のため、再征服されました。この時期に大事な建物が多く破壊され、人口減もあり衰退していきました。ピサの人は今でも少しフィレンツェを恨んでいるようです。しかし、フィレンツェの若い人々がより高度な学問に接することができるようにと、ロレンツォ・デ・メディチが 1486 年にピサ大学を再建し、イタリアで望みうる最高の学者たちを招聘しました。ピサで生まれた天文学、物理学、そして哲学者のガリレオ・ガリレイも 1589 年にピサ大学の教授になっています。小西先生もノーベル物理学賞に近いのではないかと思っています。ガリレオの生まれた家を案内してもらいました。

彼の奥様も同じ学者でシチリア人、そして論文は英語で書いているので、私との日本語での会話は日頃使っていなくて、少しばかり苦しそうでした。イタリア語の名詞は必ず男性名詞と女性名詞に分かれていて、冠詞も異なるのですが、50 年近くピサに住んでいる彼でも、新しい言葉が男性か女性かがわからなくて学生に聞くそうです。ほんとうに言葉というのはむつかしいものなんだなと、私はどこかで安心しました。

〈ピサの斜塔〉

〈ピサのガリレオ・ガリレイの生まれた家〉

フィレンツェに 7 連泊というなんとも贅沢な旅行でした。

世界の文化の中心地、芸術のゆりかごとも呼ばれているフィレンツェ、いろんな工房の見学、ミニオペラの鑑賞、フェラーリミュージアム、バルサミコ酢やチーズの工場見学、パバロッティのお宅拝見、コルトーナ、アッシジ、ペルージャ、サン・ジミニャーノ、キャンティクラシコを味わい、シエナ、モンテリッジョーニにも足を伸ばしました。

企画をして下さった石田委員長、そして同行の皆様、ほんとうに楽しい研修旅行をありがとうございました。

Grazie di cuore!
（心からありがとうございます。）
Sono grato per il viaggio con tutti!
（皆様との旅行に心より感謝いたしております。）
Grazie a voi ho potuto vealizzare il mio sogno!
（皆様のお陰で夢を実現することができました。）

永遠の花の都フィレンツェを訪れて

創立 70 周年記念研修委員会
副委員長　大木　弘惠

２０１７年９月２５日　朝１０時、ルフトハンザ航空７４１便で関西空港を飛び立った。さあ、いよいよずっと楽しみにしていたフィレンツェ７連泊の旅行が始まる。

今回の旅のコンセプトは「暮らすように旅をする」とのこと。

ヨーロッパには何度か訪れたことがあるが、一つの街にホテルに７泊して、そこを基点に街中の美術館を巡ったり工房見学をしたり、エクスカーションで少し足を延ばしたり・・・。こんなタイプの旅行は初めて。にも関わらず、幹事の石田先生がガイドブックよりも懇切丁寧で詳細な資料を手作りして下さっていたお蔭で、これに目を通すだけでもフィレンツェの情報通になれそうな知識が身に付くほどだった。

さて、７泊したホテルはグランドホテル・バリオーニ。中央駅のすぐそばで観光名所のほとんどが徒歩圏内と言う抜群の地の利のホテルだった。

玄関の回転扉、エレベーターの趣きが素敵にレトロ。まるで昔のヨーロッパにタイムスリップしたかのようで一目で気に入ってしまった。エレベーター横に書かれていた説明によると、１００年以上も前のものらしい。部屋の内装も全体的にアンティークで、ザ・ヨーロッパの雰囲気を感じさせるものだったが、バスルームは改装されていて機能的だった。

ここにゆったり７泊できたので本当にフィレンツェの街並みに詳しくなり、この街が大好きになった。きっと近いうちにまた訪れようと思う。

9 月 26 日　午前の市内観光ではフィレンツェの伝統工芸マーブル紙の製作を実演で見ることができるお店を訪れた。

マーブル紙とは水の上にインクを垂らし、水面に櫛で美しく作り出したマーブル模様を紙に写し取って仕上げるのだが、その工程を目の当たりにするとまさしく華麗な職人技だった。工程はすべて手作業なので同じような色彩やデザインはあっても、全く同一のものは一流の職人でも再現できない。今この瞬間だけのマジックなのだ。しかしこの技法、日本にもあったような？

それもそのはず。なんと起源は日本の墨流しであるらしい。それが中国に伝わりシルクロードを経てヨーロッパに入ってきたのだとか。遠い昔、墨色の伝統工芸がイタリアまで伝わり、花の都フィレンツェに相応しい優しい淡い色合いとなっていたとは感慨深い。

フィレンツェを訪れたなら、まずはウフィツィ美術館。一度聞いたら忘れない魅惑的な響きを感じていたが、オフィスを意味するウフィッチョ、ウフィツィはその複数形だと知り正直少し残念だ。もっと華やかな意味を期待していた。しかしその美術館に収蔵されているメディチ家のコレクションは、教科書に載っているような誰もが知る傑作や珠玉の絵画がひしめいていて予想以上の素晴らしさだった。

特にボッティチェリの春（プリマヴェーラ）とヴィーナスの誕生は、嫋やかな夢のようであまりにも美しい。どちらも花の馥郁とした香りが絵画から漂ってくるような、絵の世界に引き込まれたくなるような優美な魅力に溢れている。ルネッサンスの最高傑作の本物の気品に当てられ、暫くうっとりと心酔してしまうほどだった。いつまでもこのままずっと眺めていたいと思った。春の中には、薔薇、百合、スミレ、タンポポ、ひな菊、アネモネ、イチゴ、カモミール、アイリス、ヒアシンスなどなど４０種類以上の花々が描かれていて、ほとんどがフィレンツェ近郊の野山で見られるものだという。

花の都、フィレンツェ。古代ローマ時代に花の女神フローラに由来し、フローレンティア・花咲く地と名付けたことが語源とされ、フローレンス（英）、フロランス（仏）、フロレンツ（独）、フロレンスィア（西）と呼ばれている。遥か紀元前の頃のこの地は、古代ローマ人に花の女神フローラが住んでいるのかと思わせるほど美しく、色とりどりの花が咲き溢れていたのだろう。

滞在４日目のオプショナル・ツアーではモデナ（マラネッロ）のフェラーリ・ミュージアムを訪れることにした。

フィレンツェ近郊、イタリア北部のこの小さな街はフェラーリファンからは聖地と崇められているという。確かに、よほどのクルマ好きかフェラーリマニアでもない限り、世界遺産の宝庫イタリアまで来てわざわざここを訪れはしないだろう。

今回の旅行はフィレンツェ７泊という破格の日程だったので、絵画や彫刻とは一味違うイタリアが世界に誇るスーパーカーの筆頭車、走る芸術品を堪能することにした。館内は製作過程やマニアックなエンジンの展示、歴代の名車やＦ１マシンも勢揃いで、どこもかしこもフェラーリ三昧だった。

そんな中、笑顔でハンドルを握る青年の大きなパネルにふと目を引かれた。たぶん昔の有名なＦ１ドライバーだろうと思っていたら、誰あろうフェラーリの創始者エンツォ・フェラーリの若かりし頃の１枚だった。晩年、イタリアでは北の教皇と呼ばれるほど業界での影響力は絶大だったそうだ。（南の教皇はヨハネパウロ２世）その名を関する記念車エンツォ・フェラーリは 2002 年に限定 399 台で発売され今や２億円を超すプレミア価格が付いている。ちなみに 400 台目の幻の１台は、

フェラーリからローマ教皇にプレゼントされたそうである。

この超希少なフェラーリは、初めてイタリア人以外が手掛けたデザインで、そのデザイナーこそ知る人ぞ知る Ken Okuyama こと奥山清行、日本人だ。これには有名なエピソードがある。フェラーリから一大プロジェクトのデザインを委託された会社には一流のデザイナーが集められ、奥山氏はその中に単なる一デザイナーとして参加していた。チームは渾身のデザインで開発に２年をかけ、フェラーリ会長にプレゼンをした。結果は敢えなくボツ…。乗り付けたヘリコプターでそそくさと立ち去ろうとする会長を、デザイン会社の社長は 15 分間だけ引き止めることができた。このまま帰してしまったら、もう二度とフェラーリからの仕事はこない。運命の 15 分間だ。奥山氏はその間に新しいデザインを書き上げるよう社長から指示を受けたのである。そしてピンチはチャンスの言葉通り 15 分でデザイン画を仕上げ、見事フェラーリ会長の「GO サイン」を勝ち得たのだった。

フェラーリ・ミュージアムを訪れたことで日本人の思いがけない活躍を知ることができた。クルマ好きでもなんでもないが、なんとはなしに嬉しく感じる。

１７世紀の有名な彫刻家ピエトロ・ダッカにより 1640 年頃に作られたイノシシのブロンズ像は、当時の愛称ポルセリーノ（イタリア語で子豚ちゃん）のまま今でも親しまれ、フィレンツェのマスコット？として観光客にも大変人気が高い。なんでもこのイノシシの鼻を撫でると幸運が訪れるらしいのだ。フィレンツェを訪れた人に撫で繰り回されたイノシシの鼻はピカピカに光っていた。もちろん私たちも遠慮なく撫で撫でさせて貰った。

日本ではあまり知られていないが、このイノシシの背に貧しい少年が乗って眠っていると動き出し、フィレンツェの名所案内をしてくれて一緒に美術品を見て回るというアンデルセン童話「青銅のイノシシ」があるそうだ。アンデルセンもこの美術館のような街に魅了され、フィレンツェを舞台にした物語を紡がずにはいられなかったのだろう。幸運のイノシシ像は人気者で今や世界各国にレプリカが置かれているそうだ。日本にもいくつかあり、その一つは三ノ宮にある。いつか夢の中で神戸の名所案内をしてくれるかも知れない。

街のどこからでも眺められる大聖堂サンタ・マリア・デル・フィオーレ（花の聖母寺院）はフィレンツェのシンボル、ルネサンス建築の最高峰だ。６００年近くも前にこんな巨大で壮麗な石のドーム（クーポラ）を建造した革新的な設計力とそれを実現した工法・技術力に目を瞠ってしまう。完成した１４３６年当時、世界最大の教会だった。

美しい街並みの歴史地区は当てもなくただ散歩するだけでも、５００年前に生きていた人と同じ建物を眺めながら同じ石畳を踏んでいるのだと感激し、日本では決して味わえない気分に浸ることができた。芸術と文化と歴史の薫りに包まれた、また何度でも訪れたくなるような魅力に溢れる街だった。この地に咲いたルネサンスという名の花は、色褪せることなく中世の頃の美しさのまま永遠に咲き誇って欲しい。

建築会創立７０周年海外研修旅行に参加させてきありがとうございました。会員の方々とも会話弾み、有意義で楽しい時間を過ごさせて頂き、豊かな思い出深い旅行となりました。この旅行を企画して下さった石田先生には感謝感謝の気持ちで一杯です。そしてご一緒させて頂いた皆々様、ありがとうございました。またご一緒に旅行できることを楽しみにしています。

兵庫県建築会 70 周年記念海外研修に参加して

株式会社 山本設計
山本　康一郎

「フィレンツェに暮らすように旅をする」まるで家庭画報の特集のようなキャッチコピーに魅せられ夫婦で参加いたしました。今回の研修コンセプトから旅行中のコーディネートまで完璧に段取りして頂いた石田邦夫様にまずもって感謝と御礼を申し上げます。

フィレンツェを訪れたのは新婚旅行（1983 年 5 月）以来、何と 34 年ぶりでした。当時は、成田空港からアンカレッジで給油し、ロンドンヒースロー空港で乗り換え、やっとローマにたどり着く、機内食 4 回、トランジットの空港でも軽食を食べる 24 時間もの長旅だったことを思い出します。トレビの泉では、後ろ向きに 2 枚コインを投げ入れると願い事が叶うとのご利益のおかげもあり、今回の海外研修に夫婦で参加でき素晴らしい想い出となりました。

34 年前の旅行は、毎日ホテルが変わるツアーのため、ピサからの移動でフィレンツェに着き、翌日にはベニスに向いました。正味 1 日の短い滞在でドゥオーモ、ウッフィツィ美術館、ヴェッキオ橋、ミケランジェロ広場を駆け足で観光しました。しかし、ドゥオーモのピンク大理石の美しさ、美術の教科書で見た絵画、彫刻の本物と対面したこと、ミケランジョロ広場からの赤く染まった夕焼けのフィェンツェの街並みが美しかったことが印象深く、もう一度ゆっくりと訪れたいと願っていました。

〈フィレンツェ街並み　ミケランジェロ広場より　2017 年 9 月 27 日〉

我が家の心配事は両親 4 人が健康で暮らしているも、出発前でのドタキャン発生でありました。昨年 12 月に案内を頂いた後、参加に躊躇しつつもフィレンツェ 7 連泊の誘惑には勝るものはなく参加を決めました。精一杯自由行動を楽しみ、そして、気心知れた皆様方と一緒にワイワイと楽しめる又とない機会と思い、両親の健康を祈りつつ出発の日を迎えました。

フィレンツェは 2 度目の訪問につき、コンセプトに従いフィレンツェカードを持って個人行動で美術館めぐりと食べ歩きをし暮らしを楽しむ。また、ピサには行かず夫婦でミラノまで電車に乗り日帰り旅行を楽しむ。ミラノではイタリア最大のゴシック建築のドゥオーモ、オペラの殿堂として有名な歌劇場であるスカラ座を見る。レオナルド・ダ・ヴィンチが描く聖書の中で最も重要な場面である「最後の晩餐」を鑑賞する。そして、時間の許す限りガレリアでショッピングを楽しむこととしました。あとの日程はオプションツアーに参加し、トスカーナ地方の古都めぐりを楽しむ。そして、ナイトライフはメンバーと夕食を共にし、おいしい料理とイタリアワインを楽しめたら最高と考えていました。出発までの期間には沢山の資料提供もあり、地球の歩き方、その他旅行本も買い、周到に準備を進めるつもりでした。しかし、事前には読み込まず、また、機内でも寝て過し、結局はぶっつけ本番の旅行となりました。いつもながらの準備不足を後悔していましたが、幸いなことに、石田さんの適切なアドバイスとメンバー皆様のフレンドリーなお心遣い、そして、天候にも恵まれ、十二分に楽しむことができました。

毎日、フィレンツェ歴史的地区を迷いながら歩き回ったおかげで裏道まで詳しくなりました。認知症にもならず健康で歩けるうちにもう一度家族と訪れ街を案内したいと思います。街サイズも手ごろな大きさであり、いつまでも古き良きルネッサンスの香りが残る街並みが保存され、それでいて観光客と現地の人々とが出会える街に心をときめかしたいと思います。そして、今回ご一緒させて頂いた素敵なメンバーとまた良き旅ができる次の機会を願い、楽しい想い出と共に無事に帰国できたことを皆様に心から感謝いたします。

『Grazie. Ciao！』

追　記　フィレンツェ市街地と神戸市街地比較

地図を同スケールで比較すると、両都市は頑張って歩ける範囲に魅力ある楽しいスポットが沢山あります。神戸も三宮周辺が再整備され、ウォータフロントが活性化すれば、フィレンツェに負けない魅力ある都市になることを願いたいと思います。

〈フィレンツェ市街地〉

〈神戸市街地〉

ドゥオーモのある風景

神鋼不動産 株式会社
川端　宏幸

これまで幾度となく画像で見てはいたが、実際、まのあたりにしたことがなかったドゥオーモを 1 週間以上も見続けられるとは。それは、一生に一度あるかどうかの忘れがたい経験でした。

一日は、まずホテルの部屋の窓から見る夜明け前のドゥオーモから始まる。夜明けを待つドゥオーモの姿は、市民の幸せな一日を祈るようだ。そして朝食をとるレストランからみるドゥオーモは、朝日に真っ赤に染まり、我々を元気付ける。いよいよ街に繰り出すと、常にドゥオーモからの方向と距離を測りながらめざす場所を探索する。たま、ホテルのレストランで昼食をとると、太陽の下に光り輝くドゥオーモを背景として、別のテーブルでおしゃべりに興ずるご婦人方や一人で静かにページをめくる青年の表情を窺いみる。最後に、夕食からホテルに戻って窓を開けて、ライトアップされたドゥオーモを見ると、今日一日の疲れが癒され、静かな眠りについていく。

このように石田委員長、曰く、「フィレンツェに暮らすように旅をする」を実践するにつけ、たかだか 1 週間の経験しかない私でさえ、このように感じるのだから、生粋のフィレンツェ市民にとって、巨大なドゥオーモの眺めは、すっかり心と体に一部になっているのであろう。

少しドゥオーモを詳しく、フィレンツェの歴史とともに振り返る。フィレンツェの建設は、古代ローマ期にさかのぼる。紀元前 59 年に築かれる「フロレンティア」は、アルノ川のほとりの東西約 500m、南北約 400mの長方形で、東はいまのブロコンソロ通り、西はトルナブォーニ通り、北はチェレッター通り、南はポルタ・ロッサ通りに並行した市壁に囲まれて、碁盤目状の道路網が現在のチェントロ内に刻み込まれている。その東西南北の主要道路が中心で交わる地点、現在のレプッブリカ広場には、ローマの都市計画の定石通り「フォールム」と呼ばれる公共広場が設けられた。周囲を囲む建物も大きく、フィレンツェというよりはローマの印象を与えるのは、そのためだろう。

10 世紀になると、織物産業が都市に繁栄をもたらし、商工市民が率いる独立した自治を行う共和国としての道を歩み始める。毛織物業の発展に伴い、12 世紀、13 世紀と市域は拡張され、全長 8500 mの市壁と 73 の塔と 8 つの市門を備え、内部に 630ha の市域を囲い込み、現在の旧市街地を形成する。市域の南西にあるローマ門は、今でも市街地への出入口となっている。

一般的に信仰の中心である教会と市政の中心である市庁舎は、例えばドイツやオランダではマルクと呼ばれる広場に面して同じ場所に建つ場合が多い。フィレンツェでは、市域の拡張と並行して、街の北に信仰の中心である「花の大聖堂」、南に政治のシンボルであるパラッツォ・ヴェッキオとシニョーリア広場が設けられた。

ドゥオーモ広場には、大聖堂、八角形の洗礼堂、鐘楼(ジョットの鐘楼)の 3 つが各々独立した建築として配された古い形式を残している。洗礼堂と大聖堂が分離しているのは、洗礼の儀式を済ませなければキリスト教徒として大聖堂にいることが許されなかったからだという。これは後日訪れる周辺のシエナ、ピサも同様の形式である。

再び、話をドゥオーモに戻すと、イタリア随一、ヨーロッパ有数の大都市に成長したフィレンツェにふさわしい大聖堂として、アルノルフォ・ディ・カンビオの設計により 1296 年に起工された聖堂は、ファサード下部と側壁を完成させたが、半球状のドームを架ける技術的な問題を解決できず、

長い間、直径 43m の大穴が空いたままだった。1418 年に行われたクーポラ建設のコンクールで提案されたフィリッポ・ブルネッレスキの画期的なデザインの提案により、実に 14 年の月日をかけて難工事は完成した。ブルネッレスキのアイディアは古代ローマの建築物、特にパンテオンの構造の研究に基づくといわれており、ブルネッレスキの努力の成果ではあるが、ここでも古代ローマの都市構造の継承が窺える。美しいカーブと見事なバランスを見せる高さ 91m の紡錘形のクーポラは、都市フィレンツェの象徴として新しい時代、ルネサンスの幕開けを高らかに告げるのもであった。

クーポラの頂部へ向かう途中には、工事中に使われたと思われる巻上げ式のクレーンが展示されており、多分、盛土をしながらアーチを組み上げ、さらに盛土を撤去するという難工事であったと推測される。464 段の階段を上がり、クーポラの頭頂部にたどり着くと、眼下にフィレンツェの街並みの大パノラマが展開する。建物のほとんどの壁面はレンガ積みや石組みであるが、床組みや屋根組みは木造で、屋根の色調はレンガ色にまとめられている。基本的には中世からの街並みが維持されているが、時代の変化やライフスタイルに応じて、内部は増改築が繰り返されているようだ。

ゆたかな自然と歴史が流れる街の中で、そのシンボルであるドゥオーモの刻々と変わっていく表情を見ながら、ゆったりとした時間を過ごしていく大切さを改めて認識した 1 週間でした。

〈クーポラ頂部からのパラッツォ・ヴェッキオ、シニョーリア広場方面の眺め〉

ＡＲＴ ＴＲＩＰ フィレンツェ物語

株式会社 ＡＰＥＸ設計
渥美　充広

昨年末に（一社）兵庫県建築会の創立７０周年記念事業として海外研修旅行を行うということをお聞きしておりましたが、まだ建築会さんに入会していない私には叶わないお話しと考えておりました。そんな時、石田副会長さんより研修旅行のコンセプトが、『【ルネサンス文化が花開いた街・フィレンツェで暮らすように芸術と文化を味わう】とのことで、よく言われている日本人の詰めこみパック旅行ではなく、フィレンツェを基点にゆっくりと過ごしてみる旅行にしたい』と聞きました。以前妻とイタリア旅行に行った時を思い出し、今回の素晴らしい企画に是非参加してみたいと思うようになりました。そして幸いにも建築会さんのご厚意により参加させていただくことができ、とても楽しく有意義な旅行ができましたことに大変感謝しております。

しかし私たち夫婦は典型的日本人の習性からか、結局とてもハードなスケジュールでいろいろなところに出向き、建物・美術の芸術 や 街並み・食事・ワインなどの文化 そして、観光とあらゆるものを詰め込んでしまうことになりました。

フィレンツェの初日は、ガイドさんに案内してもらい街並みを散策しながら、革工房・マーブル紙工房・銀製品工房などを訪ね、職人の技・熱意を厚く感じ、私たちの仕事にも通じるところがあるようなぁと感じました

〈マーブル紙工房〉

フィレンツェ最初の夕食は『OSTERIA BELLE DONNE』で、ワインで乾杯。

〈乾杯の前に参加者全員の自己紹介〉

次の日はフィレンツェの教会の観光や美術館にて芸術鑑賞。有名な絵画や彫刻をゆっくりと鑑賞する予定でしたが、悲なしいかな職業柄、建物やデザイン・装飾の方に目を取られてしまい写真を撮りまくることに・・・。

フィレンツェの旧市街は伝統的建築物を保存するために改築建物はほとんどなく、旧建物の外装の補修と内部の改修しか認められておらず、この日の夕食会場も『il Cantinone』というレンガ積みのワインセラー倉庫を内部改装したレストランで二日目の乾杯！

夕食後、小さな教会でオペラ鑑賞。ソプラノの優雅で綺麗な歌声に合わせ、バリトンの力強さとテノールの伸びやかな歌声の優しい競演が素晴らしかった。(Bravi！)

〈ワインセラーを改装したレストラン〉

イタリア３日目の自由行動日は、私たち夫婦のみでユネスコ世界遺産に登録されている“チンクエ・テッレ（５Terre)”を巡ってきました。　“チンクエ・テッレ”は、イタリア語で「５つの土地」という意味で、11 世紀頃に要塞都市として生まれ 1000 年もの長い間、陸路がなく船のみで行き来されていた５つの村です。現在は接続道路・鉄道路線が整い、今は世界各国からの観光客で一杯でした。（ただ日本人は私たち二人のみでした）
断崖絶壁に建つカラフルな建物はとてもかわいく、またワインの産地としても有名なので、青く美しい地中海を眺めながらたくさんいただきました。

〈チンクエ・テッレ〉

ここまででも結構忙しい日程（詰め込み過ぎ）なのですが、次の日から２日間、ガウディの建物を観るために、柏本さん親子と４人でスペインのバルセロナに向かいました。一生に一度は訪れておくべきとされている“サグラダ・ファミリア”。そして、“カサ・ミラ”,“グエル公園”,“カサ・バトリョ”,“グエル邸”など、ガウディでお腹いっぱいなるまで堪能してまいりました。
やはり“サグラダ・ファミリア”の内部は色鮮やかで優しい虹色の光が大聖堂に差し込み、荘厳な雰囲気を創りあげていました

〈サグラダ・ファミリア〉

〈グエル公園〉

フィレンツェはルネサンス美術の香りがあふれる街ですが、バルセロナは曲線を多用し、華やかな装飾性を持つ 19 世紀のアール・ヌーボー（モデルニスモ）の街といった趣の違いがありました。バルセロナの夜はフラメンコ鑑賞。イタリアのオペラは美声の芸術で、声が楽器ですが、フラメンコは踊りの芸術。体でリズムをとり、手・腕・足・靴を打ち鳴らして身体全体が楽器となって奏でていました。どちらも真近に鑑賞でき、心躍る感動を経験できました

〈汗が飛び散る情熱的なフラメンコダンス〉

イタリア観光の最終日はピサ観光です。皆さんこぞって斜塔を支えている写真を撮っている光景がおもしろかった。

ピサからフィレンツェに戻る電車では、(押売りの流しの）アコーディオン演奏を聴きながらのどかに帰り、今回のイタリア旅行の最後の晩餐となる夕食は『BELCORE』という日本人シェフの店。そこでまた乾杯！イタリア料理はおいしいが、日本人シェフが作ったイタ飯はすご～く美味かった！！

今回会員でない私どもをお誘いいただきました兵庫県建築会の瀬戸本会長には大変感謝しております。また、旅行の企画から予約、詳しい資料作り、そして我々の我儘な要望をも漏れなく聞き入れていただき、現地ではプロの添乗員以上の段取りをしていただきました石田委員長さん、奥様には特に感謝いたしております。本当にありがとうございました。そして、旅行中皆様方には多々ご迷惑をかけましたのに、ずっと和気あいあいと仲良くしていただき、本当に楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございました。

次回 兵庫県建築会の創立記念旅行にも、必ず参加したいと考えております。その時はきっと正会員として。

ＧＲＡＺＩＥ

〈『 BELCORE 』にて最後の晩餐　2017.10.01〉

ＡＲＴ　ＴＲＩＰフィレンツェ物語に参加して

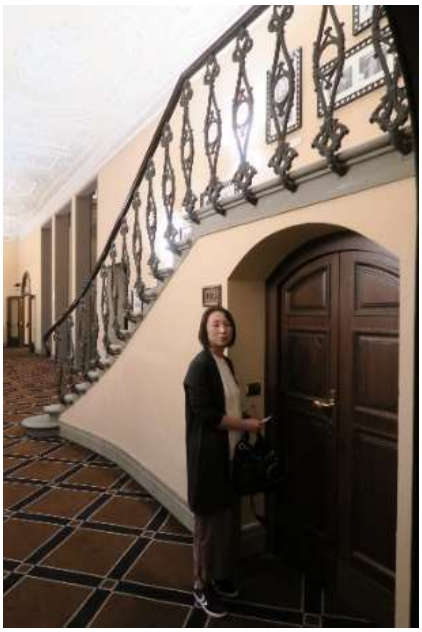
株式会社 創建設計事務所
佐川　圭

石田先生のお誘いをいただき兵庫県建築会の創立７０周年記念海外研修に参加させていただきました。フィレンツェは 20 年ほど前にイタリア各地を巡る安いツアーで訪れて以来です。しかし 20 年ぶりに見る街並みは全く変わりなく、情緒ある街並みや建物は当時のままでした。約１週間、存分にイタリア、フィレンツェ、周辺の街を満喫することができました。

そしていろいろな思いがけないことが沢山ありました。

トランジットのドイツ・フランクフルト空港での保安検査で警告ランプが点灯し脇のブースへ入れられ、詳しく調べられることに。周りを見渡すと他にも調べられているメンバーが･････
瀬戸本会長と渥美先生、もしかして 3 人の共通点の「髭」⁈　とにかく不快なＥＵ入国でした。

ようやくフィレンツェ空港に着き一路ホテルへ、疲れ果てていたので早く部屋に入りたいのに渡されたカードキーに書かれた部屋が見当たらない･････ぐるぐると迷路の様な廊下を歩き回りようやく部屋を見つけました。なんと吹き抜けのホールにある階段の踊り場の下にドアが！（写真-1）



（写真-1）

中に入るとまあ狭い、窓を開けると約４ｍ四方の吹き抜けがあり澱んだ空気が･････そして寒い･････壁際にパイプスペースがあるのか上階の激しい排水音が頻繁に。この部屋で約 1 週間過ごすのかと思うと暗く悲しい気持ちになり落ち込んで就寝。
耐えきれないので、翌朝勇気を出してフロントへ。プリーズ・ルームチエンジ！スモール！コールド！」情けないほどの単語の羅列。そして部屋番号を告げるとホテルウーマンは「ｏｈ―」と不敵な笑み･････もしかしてあかん部屋とわかってたの⁈　すんなりと部屋を替えてくれました。

翌日の観光から帰り、新しい部屋の鍵をもらい中へ入ると、綺麗・広い・清潔そして窓を開けるとドゥオーモとジョットの鐘楼が素晴らしいアングルで見えるではないですか。（写真-2）

（写真-2）

昨夜の暗い気持ちも一遍に吹飛び滞在中心地良いホテルライフを楽しむ事ができました。今から思えば面白い⁈想い出です。翌日からはハードな観光へ･････

写真も沢山撮影しました。綺麗に澄み切った青空、ファインダーには素敵な被写体が次から次へと。旅行中の撮影枚数は約 1.800 枚
街並の風景、そして少し違う視点でも撮影してみました。その一部をご紹介します。

〈本場のちょい悪オヤジ〉

〈朝の散歩〉

〈屋台のフルーツショップ〉

〈青空と教会〉

〈ヴェッキオ橋〉

〈イタネコ〉

〈路地その 1〉

〈路地その 2〉

〈路地その 3〉

〈オシャレな少女〉

〈光と影とちびまる子〉

〈階段を昇る少年〉

〈チェスをする少女たち〉

〈バルサミコ酢〉

〈チーズも積もれば山となる〉

〈十字架〉

〈ドゥオーモの夜明け〉
（ホテルの朝食テラスレストランより）

『今回の撮影した中での自信作！』

バルサミコ酢の工房の前で見学後
ひと休みされる瀬戸本先生。
子犬を見つめる優しい眼差し。
レオンとかのファッション誌の
１ページに何となく見えませんか？

まぁ一今回のフィレンツェの旅はとにかく歩いた歩いた！たぶん１日２万歩以上。
朝６時に起きて朝食をとりその日のツァーへ！８時出発で帰りは夜の８時そして全員で９時ごろから夕食会。１１時過ぎにホテルに帰りお風呂に入り就寝。こんなスケジュールの繰り返し。旅行でテンションが上がっていたから出来たのでしょうね。とにかく今回の研修旅行は内容も充実、そして素晴らしいメンバーでした。本当に楽しかった！思い出に残る旅でした。

最後になりましたが、約１年前から詳しい資料を作成され皆にお配り頂き現地でも気配り・目配り・心配りの行き届いたお世話をして頂いた石田先生に心から感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。

《 追　記 》
今回の旅行のサブテーマは
「久しぶりに夫婦で手を繋いで歩こう！」
と石田先生が言われていました。
そんなお姿をこっそり激写。
よく見ればペアシューズ！

フィレンツェ物語（イタリア・スペインの旅）

株式会社 アーキノヴァ設計工房
柏本　保

去る平成２９年９月２５日（月）から１０月３日（火）までの９日間、“(一社) 兵庫県建築会・７０周年記念海外研修旅行”の企画に総勢２０名が参加しました。

私はゼネコンの設計部に勤務する息子とペアでの旅となりました。

今回の研修委員長石田さんの企画により、「フィレンツェに暮らすように旅をする」というテーマでフィレンツェ７連泊の企画でしたが、オプションもOK。息子と相談の上、ローマに１日、スペイン・バルセロナでの主に“ガウディの建築巡礼”の１泊２日のオプションツアーを組み込みました。ちなみに、ローマは息子と二人だけ。スペイン・バルセロナは渥美夫妻との４人。ガイドなしのきままな旅行です。

息子は成人してから初めての海外旅行。彼から見たい建物の提案があり、旅行前は何度も見学ルートの論議を重ねました。したがって、今回のオプションツアーに関しては彼の意見を概ね反映したコース設定としました。　私はジョギングが趣味なので、今回も現地での早朝のジョギングを楽しみにしておりました。

２日目（９月２６日)、フィレンツェ到着の翌日早朝息子と二人でアルノ川沿いに約 40 分のジョギング。市内の道路はほとんど石畳み仕様で少々走りづらいですが、地元のジョガー達ともすれ違いざまに“ボンジョルノ”と声掛けし、気持ちはすでにイタリア人。

午前中は旧市街の伝統工芸の工房巡り。熟練の職人たちの美しいデザインの皮製品や金属加工等の工房を訪れました。ここには廉価で素敵な日用品にあふれ、気に入った製品が数多くあり、早くも土産品をいっぱい買い込みました。

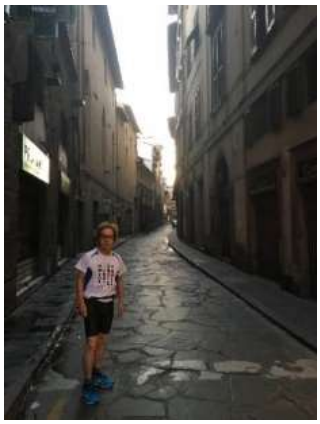
午後は、１５世紀の大建築家ブルネレスキ設計の『サント・スピリト教会』、フィレンツェの象徴である『サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂』（ドゥオーモ）を見学しました。ちなみに他の建物は市の条例により、この大聖堂の高さを超えることができないようです。

最後に巨大な『ウフィツイ美術館』を見学。ここには１５世紀～１８世紀の大富豪・メディチ家が政府に寄贈したコレクションが全て展示されており、「ビーナスの誕生」等数画集で見た多くの絵画が展示され、まともに見学するとまる１日かかりそうです。

３日目（９月２７日)、建物見学と美術館巡り。午前中はミケランジェロ設計の『メディチ家礼拝堂』を見学。その後『ラウレンツィアーナ図書館』、『サン・ロレンツォ教会』、ミケランジェロ作の「ダヴィデ像」が展示されている『アカデミア美術館』を見学。息つく暇もありません。

午後は『ミケランジェロ広場』を訪れました。この広場はフィレンツェの中心地を一望できる高台にあり、まるでおとぎの国のようなロケーションを楽しみました。

その後『バルジェロ国立美術館』、『捨て子養育院』、メディチ家の宮殿『ヴェッキオ宮殿』と続けさまに見学し、まさに美術好き、建築好き人間にとってはたまらない至極の１日となりました。



〈早朝のジョギング〉

〈ミケランジェロ広場から市内を臨む〉

〈路上の画家〉

《イタリア・フィレンツェ》

４日目（９月２８日）、いよいよ息子と二人だけのローマへの旅です。なにぶん初めての二人だけのヨーロッパであり、少々不安です。

朝１０時頃ローマに到着。最初の見学地『コロッセオ』は古代ローマの円形競技場で、３層のアーチ壁面をドリス式、イオニア式、コリント式の柱頭で飾られ圧巻の迫力でした。

それから徒歩で古代ローマの公共建物群のある『フォロ・ロマーノ』を遠目に見ながら、オードリー・ヘプバーン主演の映画「ローマの休日」のシーンにも出てくる石の彫刻『真実の口』（うそつきが口に手を入れると食べられて抜けなくなるという言い伝えがある。）を訪れました。

さらに徒歩で『ヴェネツィア広場』を通過しましたが、ローマの街は庶民的なフィレンツェとは趣が違い道路も広く建物も迫力があり、とてもゴージャスな街並みです。

次に古代ローマの建築の中で最も荘厳な円堂『パンテオン』に向かいました。
建物頂部の９ｍの円の開口は圧巻で当時としては驚嘆に値する技術力です。

その後『トレビの泉』に移動。観光客が必ず訪ずれる場所です。後ろ向きにコインを投げたら願いが叶うという言い伝えがあり、池の水がとても透明感があり感動的でした。

最後に『スペイン広場』に向かいましが、１３８段の階段が都市のランドマーク的役割を果たしており、すごく開放的な空間です。映画「ローマの休日」のシーンにも出てきますが、若き日のオードリー・ヘプバーン演じるアン王女に会いたい気分になりました。

午後６時前に駅を出発しましたが、予想していたとは言え時間的余裕がなく、駆け足のやや消化不良の旅となったのが残念です。見学ルートを間違え右往左往したり、建築論で口論したり“親子ならではの珍道中”。記憶に残る楽しい一日でした。

〈コロッセオ〉

〈パンテオン〉

〈真実の口〉

《ローマ》

５日目（９月２９日）、早朝の飛行機でスペイン・バルセロナに渥美夫妻と４人で向かいました。

午後１時にアントニオ・ガウディ設計の『サグラダ・ファミリア聖堂』を訪れました。

実物は想像以上に迫力があり、人が神を敬いそれを何かの形にしようとし、着工より 135 年の間、途方もない歳月を費やしてきた“エネルギー”がひしひしと伝わってきます。

聖堂内部は壮大で荘厳な空間。樹木のような飾り柱の光とステンドグラスから降り注ぐ、美しい光。まさに“神秘の森”であり、身震いのするような空間でした。

次にガウディ設計の共同住宅『カサ・ミラ』、建築家・伊藤豊雄がファサードを改修した『スイーツアベニュー』見学の後、ガウディ設計『カサ・バトリョ』の内部を見学しました。住宅の改修建物ですが、建具および建具金物一つにもさまざまな意匠や生活の工夫が施され、そのディテールに驚嘆するしかありません。

次にリチャードマイヤー設計の『バルセロナ現代美術館』を訪れました。まさに“白の巨匠”と呼ばれるに相応しいファサードでした。

本日のガウディ巡礼の最後は“グエル邸”です。この建物も予約してあり内部を見学することができました。きらびやかさを追求する為に心を割いた作品であることが随所に表現されておりました。これで本日の建物巡礼終了。夜はバルセロナで一番有名なフラメンコの店『タブラオ・フラメンコ・コルドベス』にて、本場のフラメンコを堪能しました。

〈サグラダ・ファミリア聖堂〉

〈カサ・ミラ〉

〈カサ・バトリョ〉

《スペイン・バルセロナ》

６日目（９月 30 日)、フィレンツェ直行便の都合上、バルセロナ空港を午後１時 30 分に出発する必要があり、建物見物は午前中のみ。早朝に息子と二人で、フランスの建築家ジャン・ヌーヴェル設計の“つくしの頭”のようなデザインの光輝く高層ビル『トーレ・アグバル』の外観のみを見学後、午前９時予約の『グエル公園』に移動しました。

『グエル公園』の随所に存在する数々のシンボリックな意匠と、その童話的・前衛的なデザインはまさに現在のテーマパークに相応しく、まるで観光客でごった返す現在の状況を１００年以上も前にすでに見透かしていたかのようです。

『グエル公園』を後にし、最後の見学地『ミース・ファン・デル・ローエ記念館』に息子と二人で向かいました。記念館はシンプルな中にも研ぎ澄まされたしつらえの内部空間。

外部は軽さとシャープさが融合したモダニズムの巨匠ならではのフォルム。この地を訪れることができた喜びを感じ取れる建物でした。

あわただしい旅でしたが、予定通りの見学地をほぼ時間通りにこなせたバルセロナの旅でした。

７日目(10 月１日)、フィレンツェ滞在最後の日。午前中はピサ市へ列車での日帰り研修。有名な『ピサの斜塔』を含む『ドゥオーモ』、『洗礼堂』の見学。午後はフィレンツェに戻り、買い残したお土産の買い物に時間を割きました。

以上今回の旅行記を思いつくまま時系列的にしたためましたが、今後の設計活動のスキルアップに繋がるとても有意義な旅行となりました。最後に建築会会長として旅行を盛り上げていただいた瀬戸本会長、今回の旅行のためにきめ細かな計画を立てていただいた、石田研修委員長に感謝申し上げます。ありがとうございました。

〈ミース・ファンデレ・ローエ記念館〉

〈グエル公園〉

《スペイン・バルセロナ》

〈ピサの斜塔〉

《イタリア・ピサ》

ART TRIP フィレンツェ物語
（フィレンツェに暮らすように旅をする）

研修旅行旅程表、参加者名簿

〈 ドゥオーモのクーポラを見上げている建築家フィリッポ･ブルネレスキ 〉

一般社団法人 兵庫県建築会《創立７０周年記念海外研修》

～ ART TRIP　フィレンツェ物語 ～

旅 程 表

１日目《９月２５日（月）》

★☆★『パスポート』、『オプショナルツアーの予約書類』を忘れないように！★☆★

８時１０分、関西国際空港 第１ターミナル４階

南団体カウンターの JTB コーナーに集合

◆リムジンバス；神戸三宮発 7 時 00 分　→　関空第 1 ターミナル 8 時 05 分着
；加古川駅発 6 時 25 分　→　関空第 1 ターミナル 8 時 10 分着
；梅田新阪急ホテル発 7 時 10 分　→　関空第 1 ターミナル 8 時 00 分着
◆ベイシャトル；神戸空港･海上アクセスターミナル桟橋発 7 時 15 分　→
関空第 1 ターミナル 7 時 55 分着

(1) ルフトハンザ航空の搭乗手続きはＢカウンターで行われます。
団体チケットのため、座席位置の希望が叶えられない場合があります。
◆ 関西空港 10：00 出発 LH741 便　→　フランクフルト 14：50 到着予定
◆ フランクフルト 17：00 出発 LH316 便に乗継　→　フィレンツェ 18：30 到着予定
（補記 1）無料受託手荷物；日本発着路線のエコノミークラス（23 kg以下×2 個）
／ ビジネスクラス（32 kg以下×2 個）
※サイズは 3 辺の和 158ｃｍ以下
（補記 2）機内持ち込み手荷物；小型バック 1 個（サイズ 30×40×10ｃｍ以内のﾊﾝﾄﾞﾊﾞｯｸ類）以外に
エコノミークラス（8 kg以下×1 個）／ビジネスクラス（8 kg以下×2 個）
※サイズは 55×40×23ｃｍ以内
(2) セキュリティ検査、出国審査手続きを済ませた後、搭乗ゲート周辺で**９時３０分**頃、再点呼

(3) フランクフルト空港到着・降機後、出来るだけ近くの集まりやすい場所に集合 → 搭乗口の確認
(4) フィレンツェ・ペレトラ空港到着予定 18 時 30 分、荷物受取場所で集合
(5) ホテルへは、予約をしておいたミニバン３台に分乗

(6) ホテルの宿泊手続きは、一括で行いますのでパスポートの準備をしておいてください。
又、ホテル宿泊税（31.50 ユーロ／人）も一括して支払います。
(7) ホテルの部屋は、バスタブ付きで予約をしています。部屋に入ったら水廻りの確認してください。
尚、トランクを運んでくれるポーターへのチップは、事前に支払っています。

２日目《９月２６日（火）》

◎ フィレンツェ裏道散策と工房巡り（4 時間）；参加者 18 人／名簿順で３班に分けました。
※『銀細工工房』、『モザイク工房』、『マーブル紙工房』、『革工房』を見学する予定です。
観光客には一般的でないアルノ川左岸（川向う）に有る、世界で一番美しい教会と評されている『サント･スピリト教会（ART TRIP フィツツェ物語：資料Ａの 23 頁参照)』にも立ち寄ります。

♦第一班〖渥美 2、上山 2、佐川 2〗； 9 時 00 分ホテルを出発 ～ ドゥオーモ広場で解散
♦第二班〖大木、平島、柏本 2、石田 2〗；9 時 00 分ホテルを出発 ～ ｻﾝﾀ･ﾏﾘｱ･ﾉｳﾞｪｯﾗ教会前広場で解散
♦第三班〖瀬尾 2、瀬戸本 2、山本 2〗；14 時 15 分サン･ジョバンニ洗礼堂 天国の門前に集合 ～
ｻﾝﾀ･ﾏﾘｱ･ﾉｳﾞｪｯﾗ教会前広場で解散

（補記）第一班のガイドさんは、午後からの第三班の案内に備えて、ドゥオーモ広場近くでランチを摂る予定です。希望者は、このガイドさんお勧めのお店で食事を一緒に摂ることができます。
（但し、ガイドさんの食事代は負担してくださいね。）

〈第一班、第三班のガイド小泉真樹さん〉

〈第二班ガイド松井純子さん〉

◎ ウフィッツィ美術館案内（3 時間）；参加者 4 人
工房巡り第二班の内 4 人は、ｻﾝﾀ･ﾏﾘｱ･ﾉｳﾞｪｯﾗ教会前広場で解散後、ガイドの『松井純子さん』と行動を共にし、大聖堂又はオルサンミケーレ教会の観光とランチ共にします。
（ガイドさんの食事代を負担してくださいね。）
ランチが終わってからウフィッツィ美術館見学で、終了は 17 時 45 分頃になります。

● 夕食会場；OSTERIA BELLE DONNE（予約時刻 20 時 30 分） 電話：055-238 2609
20 時 10 分 ホテルロビー集合 住所：Via dell Belle Donnne, 16

３日目《９月２７日（水）》

◎ フィレンツェ市内案内（9 時～16 時）；参加者 4 人 ⇒ **10 人**《当日の参加申込みも可》
※ 美術館や教会を鑑賞する途中、バールで休憩をし、ランチも摂り、お店も覗いていきます。
9 時にホテルを出発【メディチ家礼拝堂、ラウレンツィアーナ図書館、アカデミア美術館、バルジェッロ国立美術館、ヴェッキオ宮殿】を訪れる予定。
又、タクシーを利用してミケランジェロ広場にも行きます。
ガイドは、『松井純子さん』です。

● 夕食会場；il Cantinone（予約時刻 18 時 50 分） 住所：Via Santo Spirito, 6
電話：055-218 898
18 時 30 分 サンタ･トリニタ橋南端（ヴェッキオ橋の１本西の橋で、川を渡る）集合
※夕食会場に行く前に、ポンテヴェッキオ橋を背景にして、全員の集合写真を撮ります。
〇橋を渡った右前方に名物ジェラテリア『Gelateria Santa Trinita』があります。
SESAMO NERO（黒ごま風味）のジュラートがお勧めとのこと。
食事終了後（20 時 30 分）、オペラ鑑賞会場の St. Mark Anglican 教会に向かいます。

● **オペラ鑑賞**（21 時 00 分～22 時 45 分） 住所：Via Maggio, 16
（前日に、予約した催行会社に Reconfirmation が必要）

４日目《９月２８日（木）》

◎ フェラーリミュージアム他　日帰り一日観光の参加者；6 人⇒ **8 人**
　8 時 00 分　サンタ・マリア・ノヴェッラ駅構内 薬局前に集合
　19 時 30 分　サンタ・マリア・ノヴェッラ駅前ロータリー周辺で解散

◎ ミラノ　日帰り一日観光の参加者；2 人（Breakfast box　２人分用意）
　6 時 53 分　サンタ・マリア・ノヴェッラ駅発 Milano Centrale 行き列車（8 時 40 分着予定）
　9 時 20 分　ZANI VIAGGI（オレンジ色の建物 MIlian Visitor Center 内）オフィス前に集合
　17 時 20 分　Milano Centrale 駅発フィレンツェ行き列車（18 時 59 分着予定）

◎ ローマ　日帰り一日観光の参加者；2 人
　8 時 08 分　サンタ・マリア・ノヴェッラ駅発 Roma Termini 駅行き列車（9 時 40 分着予定）
　17 時 50 分　Roma Termini 駅発フィレンツェ行き列車（19 時 22 分着予定）

◎ ~~アウトレットモール行きシャトルバス予約者；2 人~~
　~~**9 時 15 分**　ｻﾝﾀ･ﾏﾘｱ･ﾉｳﾞｪｯﾂ駅構内 16 番ホームの観光体験訪問者センターに集合~~（当日キャンセル）

● **夕食会場；Ristorante Paoli（予約時刻 21 時 00 分）**　　電話：055-216 215
　20 時 40 分　ヴェッキオ宮殿入口・ダヴィデ像前集合　　住所：Via dei Tavolini, 12 r

５日目《９月２９日（金）》

◎ コルトーナ、アシッシジ、ペルージャ　日帰り一日観光の参加者；14 人
　7 時 00 分　ホテルまで出迎え（Breakfast box　14 人分用意）
　20 時 00 分　サンタ・マリア・ノヴェッラ駅前ロータリー周辺で解散

◎ スペイン・バルセロナ　一泊二日観光の参加者；4 人（Breakfast box　４人分用意）
　ブエリング航空 VY6004 便；フィレンツェ発 **9 時 00 分**
　（9 月 30 日 15 時 30 分；フィレンツェ帰着予定）

● **夕食会場；BELCORE（予約時刻 20 時 30 分）**　　電話：055-211 198
　20 時 10 分　ホテルロビー集合　　住所：Via dell’Albero 30
　肉料理；9 人／魚料理；7 人

６日目《９月３０日（土）》

◎ サン・ジミニャーノ、シエナ、キャンティ　日帰り一日観光の参加者；16 人
　8 時 00 分　ホテルまで出迎え
　19 時 45 分　サンタ・マリア・ノヴェッラ駅前ロータリー周辺で解散

● **夕食会場；Ristorante Giglio Rosso（予約時刻 21 時 00 分）**　　電話：055-211 795
　20 時 40 分　ホテルロビー集合　　住所：Via Panzani 35/R

７日目《１０月１日（日）》

◎ ピサ　日帰り半日観光の参加者；18 人

7 時 40 分　ホテル出発 ／ 徒歩で Firenze S. M. N 駅へ ／ 切符は発売当日のみ有効

8 時 05 分　Pisa Centrale 駅行きの電車 Regionale23439 に乗車（9 時 22 分到着予定）

《又は 7 時 53 分発 Regionale23451 に乗車（9 時 03 分到着）》

10 時 15 分　ピサの斜塔の入場ゲートに集合（入場予約時刻　10 時 30 分）

尚、事前に貴重品とカメラ以外の手荷物は、所定のロッカーに入れておきます

【斜塔の観光後は自由行動とし、各自でフィレンツェに戻って下さい】

【以降の標準的な予定】

12 時 30 分　ドウォモ広場を出発し、ピサ中央駅まで散策しながら戻る（約 2.0 km）

途中、旧市街のカヴァリエール広場周辺で適宜昼食を摂る

13 時 45 分　Pisa Centrale 駅到着

13 時 54 分　Firenze S. M. N 駅行きの電車 Regionale33130 に乗車（15 時 07 分到着）

（Pisa Centrale 駅発　12：32、13：12、13：32、13：54、14：01、14：32、14：54）

（Firenze S. M. N 駅着 13：32、14：00、14：32、15：07、15：24、15：32、16：07）

◎ ~~アウトレットモール行きシャトルバス予約者；2 人（Pisa Centrale 駅発 12 時 32 分に乗車）~~

~~13 時 45 分　ｻﾝﾀ･ﾏﾘｱ･ﾉｳﾞｪｯﾂ駅構内 16 番ホームの観光体験訪問者センターに集合~~（当日キャンセル）

● **夕食会場；~~Trattoria al Trebbio~~ ⇒ BELCORE（予約時刻 19 時 30 分）** 電話：055-211 198

19 時 10 分　ホテルロビー集合　　住所：Via dell’Albero 30

８日目《１０月２日（月）》

★☆★『パスポート』、『航空機 e チケット』を再確認して！★☆★

7 時 10 分　各自でチェックアウト手続きを済ませた後、ホテルロビーに集合

~~（Breakfast box　20 人分用意）~~（前日にキャンセル）

7 時 15 分　予約しておいたミニバン３台に分乗して空港に向かいます。

(1) 空港ターミナルに到着後、エスカレータで２階に上がり、各自で搭乗手続きをして下さい。
その後、免税手続き等を行って下さい。
※フィレンツェ発フランクフルト行き　LH309 便（10 時 5 分発、11 時 40 分着）

(2) フランクフルト空港到着・降機後、出来るだけ近くの集まりやすい場所に集合
出国手続き・セキュリティチェック終了後、全員で出発ゲートの確認
※フランクフルト発関空行き　LH740 便（13 時 20 分発、10 月 3 日 7 時 40 分着）

９日目《１０月３日（火）》

関西空港到着後、各自で帰国審査手続きと預け荷物のピックアップ

（注記）預け荷物に問題が発生する可能性があるので、全員の預け荷物を確認した後に
税関検査を受けます。

税関を出た辺りで集合し、その後解散します。

創立 70 周年記念海外研修　参加者名簿

（ART TRIP フィレンツェ物語）　2017 年 9 月 25 日～10 月 3 日

（No は五十音順）　　団長;瀬戸本　淳　　副団長;石田　邦夫

No	氏　名（Name）		会 社 名（Company）
1	渥美　充広	MITSUHIRO　ATSUMI	㈱APEX 設計 apex.a.o@titan.ocn.ne.jp
2	渥美　眞由美	MAYUMI　ATSUMI	
3	石田　邦夫	KUNIO　ISHIDA	㈱黒田建築設計事務所 ishida88@kuroda-sekkei.jp
4	石田　千賀子	CHIKAKO　ISHIDA	
5	上山　高司	TAKASHI UEYAMA	神鋼不動産ﾋﾞﾙﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｻｰﾋﾞｽ㈱ ueyama.takashi@kobelco2103.jp
6	上山　晶子	AKIKO UEYAMA	
7	大木　弘惠	HIROE　OKI	㈱大木工務店 info@ohkikomuten.jp
8	平島　君子	KIMIKO HIRASHIMA	
9	柏本　保	TAMOTSU　KASHIMOTO	㈱アーキ・ノヴァ設計工房 JDE03404@nifty.ne.jp
10	柏本　智史	SATOSHI　KASHIMOTO	
11	川端　宏幸	HIROYUKI KAWABATA	神鋼不動産㈱ kawabata.hiroyuki@kobelco2106.jp
12	川端　充世	MITSUYO KAWABATA	
13	佐川　圭	KEI SAGAWA	㈱創建設計事務所 kei-sagawa03@mbk.nifty.com
14	佐川　真理子	MARIKO SAGAWA	
15	瀬尾　武夫	TAKEO SEO	㈱宮本設計 mto@gold.ocn.ne.jp
16	瀬尾　佳子	KEIKO SEO	
17	瀬戸本　淳	JUN　SETOMOTO	㈱瀬戸本淳建築研究室 j-setomoto@jsao.co.jp
18	瀬戸本　千恵子	CHIEKO　SETOMOTO	
19	山本　康一郎	KOICHIRO YAMAMOTO	㈱山本設計 yamamoto.k@yamamotosekkei.co.jp
20	山本　政子	MASAKO YAMAMOTO	

8　フィレンツェ物語（イタリア・スペインの旅）スケッチ
㈱アーキノヴァ設計工房　柏本　保

ローマ『真実の口』スケッチ

バルセロナ
『サグラダ・ファミリア大聖堂』スケッチ

上　真実の口、下サグラダ・ファミリア大聖堂
スケッチ：柏本　保